

2023年度 3歳児年間カリキュラム

年間目標		・基本的な生活習慣を身につけ、園生活の流れ、生活リズムを整え覚える。				・保育者や友達と親しみ、ふれあいながら安心して自分のしたい遊びを楽しむ。				・神様の存在を知り、感じてみる。			
子どもの姿と育てたい側面		・新しい生活に期待を持っているが、不安もあり、泣いてしまう子どもいる。保育者との温かい関わりを持ちながら少しずつ心を通わせていってほしい。 ・身の回りのことを少しずつ自分でやろうとしてほしい。 ・体を動かす遊びを楽しむ。固定遊具、戸外で遊ぶことを楽しんでほしい。			・情緒が安定して周囲の環境の変化に少しずつ対応できるようになってくだろう、その中で自分でやろうとする気持ちを育てたい。 ・遊具や玩具に興味を示し、友達とふれあいながら好きな遊びを見つけていってほしい。 ・夏の季節を感じ、水遊びを楽しんでほしい。 ・様々なことに好奇心を持ち、関わるようになる。生活や遊びの中で見たり触れたり試したりする喜び味わわせたい。			・基本的な生活習慣が身につけてきている時期であるが、自分でやろうとする心を大切にしていき、頑張る姿を見守り、出来ないところは手伝ってあげながら、自分でできた喜びを味わい、次に自分でやってみようとする気持ちへつなげてあげたい。 ・友達に興味を示し、仲間意識が芽生えてくる時期であると思う、自分の思いを通そうしたり、相手の気持ちを受け入れたり、ゆずり合ったりする心の芽生えを大切にしていきたい。 ・聖書のお話を聞いて、神様の存在を感じてほしい。			・園生活の仕方がわかり、自分でできることは自分なりに進めようとする。このような行動を通して自分の力を知り、充実感を味わわせたい。 ・体験したこと、想像したこと、自分の気持ちを言葉で表現できるようになる、十分に話す楽しさを感じるとともに相手の言葉を聞く心も育てたい。 ・描く、切る、歌う、リズムに合わせて動くなど様々な表現方法があることを知り、楽しんでほしい。		
発達の節		Ⅰ期		Ⅱ期			Ⅲ期			Ⅳ期			
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ねらい		・安心して登園し、保育教諭に親しみや信頼感を持つ。 ・園生活の流れを知り、園生活のリズムを身につける。 ・園の遊具や玩具に興味を持ち、自分から遊ぼうとする。		・園での生活の仕方がわかり、自分の身の回りの始末が少しずつできるようになる。 ・遊びや生活には約束や決まりがあることを知り、ルールを守ろうとする。 ・保育教諭や友達と関心を持っていることに関心を持ち、同じことをやろうとしたり遊びをしようとする。			・生活の仕方が自分なりに考え、一人でやってみようとする。 ・友だちと一緒に同じ遊びをする楽しさを味わう。 ・保育教諭や友だちと共に生活することを喜び、話したり聞いたりして会話を楽しむ。 ・経験したこと、感じたこと、想像したことなどを好きな方法で表現する。 ・合同礼拝での、神様のお話を聞いて神様を身近に感じる。			・基本的な生活習慣が身につけ、自信をもつてのびのびと行動をする。 ・友達と遊んだり話したりすることを喜び、一緒に行動しようとする。楽しんで進んで友達と遊ぶようになる。 ・大きくなったことを喜び、進級を楽しみにする。			
指導内容の視点		○園における食事、排泄、手洗い、うがい、衣服の着脱など基本的な生活習慣の仕方を知り、自分でやろうとする。 ○戸外の遊具で遊ぶことを喜び、使い方を知り、楽しむ。 ○落ち着いた雰囲気の中で、安心して午睡をし、生活リズムを整えていく。 ○保育教諭や友達と安心して遊ぶ。 ●自分のクラスがわかり、担任や友達の名前を覚えて、親しみを持つ。 ▼自分の好きな遊びを見つけて楽しむ。 ▼土、砂、粘土などの感触を楽しむ。 ▼積み木、ブロック、おままごと玩具などに、興味を持ち、触れて遊ぶ。 ◆したいこと、してほしいことを保育教諭に動作や言葉で伝えようとする。 ◆絵本、紙芝居、お話を見たり、聞いたり手遊びを一緒に喜んでやったりすることを楽しむ。		○食事、排泄、衣服の着脱など自分でできることは自分でやろうとする。自分でできることが増えてくる。 ○午睡の習慣が付き、休息を十分にとる。 ○走る・跳ぶ・転がるなど、固定遊具の遊びなど思いっきり体を動かす。 ○自分の好きな遊びを選び、楽しく遊ぶ。 ▼夏の季節を活かして水に親しみ水遊びを楽しむ。 ●保育教諭の姿を見ながら、真似をしてみたり、楽しそうな雰囲気をつかっけにいろいろな遊びに加わる。 ●気の合う友達とふれあうことを楽しむ。 ●物や場の取り合いなど友達とのトラブルを経験し、相手の気持ちがわかったり、自分の気持ちを相手に伝えたり他人の存在や要求に気づく。 ◆遊びの中でかして、いいよ、ありがとうなどのやり取りなどから言葉を感じて使う。 ■絵本やテレビの登場人物や好きなものになり、イメージをもって遊ぶ。友達と同じようにやろうとする。 ■知っている歌や曲を楽しく歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたり、歌を覚えて友達と一緒に歌ったり簡単なリズムを楽器に触れながら音を出したりすることを楽しむ。			○手洗い、うがい、衣服の着脱をできるようになってきたことを喜び、自分でやってみる。 ○みんなと一緒に食事することを喜び、給食の味に慣れてきて、自分で食べてみようとする。 ○活発に自分から体を動かして喜んで遊ぶ ●友だちと同じ活動に参加し、みんなと一緒にすることを喜び、楽しむ。 ▼散歩など園外に出た時に、保育教諭の指示を聞き、安全に気をつけて行動しようとする。 ▼園行事に喜んで参加し、次への意欲を向上させ、楽しんで取り組む。 ▼自然の中で、木の実や葉、花、種など集めてそれを使って遊び、自然に興味を持つ。 ◆気の合う友だちと遊ぶ中で、自分の気持ちを自由に話したり、アイデアを出したりする。 ◆絵本や紙芝居などをみんなで楽しみ、好きな登場人物になって遊ぶ。 ◆遊びやおしゃべりの中でやりとりを楽しみながら、生活に必要なことばを知っていく。 ◆友だちのやることを見たり、保育教諭の姿を見て真似をしたり、いろいろな関わりがあることを経験し、相手の気持ちを受け入れたり、自分の気持ちを伝えたり言葉で表現することを知る。 ■身近な素材や用具を使って、好きなように作ったり、描いたり、それを使って遊んだりする。 ■簡単なリズムを楽器を使って自由に音に合わせて鳴らしてみる。 ■リズムの変化に合わせて体を動かしたり、身近な動物や乗り物の動きなどを体で表現し楽しんでみる。			○物や場所の安全な使い方がわかるようになり、気をつけて遊ぼうとする。 ○全身を使った遊びを十分にし、寒さに負けず元気よく過ごす。 ●年長児や年中児の真似をしたり、仲間に入れてもらったりして楽しむ。 ●保育教諭のお手伝いを喜んでする。 ●クラスの一人としての意識が芽生え、一緒に行動することを喜ぶ。 ●友だちと一緒に遊びの場を探したり、作ったりしながらそれぞれのイメージを出し合って共有したりすることを楽しんで遊ぶ。 ●友だちが困っていたり泣いていたりに、慰めたり手助けしたり、協力しあったりする。 ▼霜柱、雪、氷など冬の自然現象に興味を持つ。 ▼公共物や共有の物を大切に扱おうとする気持ちを持つ。 ●悲しいこと、うれしいこと、考えたことなど言葉で表現してみる。 ◆好きな絵本や紙芝居の内容が理解できるようになる。 ■描いた物や作った物を保育教諭と一緒に飾ったり使って遊ぶ。 ○入園当初からの写真を見たりお話を聞いたりして成長を喜び、自信を持つ。 ○進級を楽しみに待つ。			
環境構成の要点		・下駄箱、ロッカー、タオルかけなどの自分の場所の自分のマークをつけて、安心して自分の持ち物の整理ができるようにする。 ・食事や排せつの仕方を保育者と一緒に繰り返しながら、正しい仕方が身につくようにする。 ・一人一人温かく受け入れ、子どもの気持ちを十分受け入れていく。 ・室内は、家庭的な雰囲気を作り、年齢に添った玩具の用意をして安心して遊ぶことができるようにする。		・戸外の遊具や砂場を整備し、保育教諭が見守りながら安全に使えるようにする。 ・生活の仕方は個人差に応じて、一人一人のペースを大事にしなが、年長児の姿を見せたり、手伝ってもらったりしながら、自分でもやってみようとする気持ちを育てていく。 ・水遊びやプールの整備をし、水遊びの用具・玩具などを準備する。プール準備の時、危険のないように心がける。衛生面には十分、注意する。 ・保育教諭や友達との遊んでいる様子を見せ、遊びに関心を持つよう誘いかけたり仲立ちをしたりする。 ・保育教諭は子どもの話そうとする気持ちを十分受け止めながら、共感を持って子どもの心を大切にしてい			・気持ちを落ち着けたり、疲れたり、一人でいたいときなど、心を安心してゆだねられ、過ごせる場所を工夫して作っておく。 ・運動会の準備のため、生活リズムが乱れたり、活動が偏ったりしないよう留意し、子どもの表情、体調に心を配りながら留意する。 ・年中児、年長児の運動を行っている姿を見て、やってみたい、真似してみたいという気持ちが芽生える心を大切に、必要な用具を身近に用意しておく。 ・園外のいろいろな場所で、自然に触れて楽しめるようにする。 ・自分で何かを考えようとしたときは、保育教諭は落ち着いて静かに見守り、最後までやり遂げようとする努力を認めていく。できない場合は、様子を見ながら、助けを求めてきたときに手を差し伸べて、できた！という満足感を味わえるようにする。			・暖房、換気、寒さへの対応など、安全・健康に留意する。 ・いろいろな遊びが発展し、より楽しくなるように材料や遊具の準備や配置に心掛け、保育教諭も仲間になったり、遊びのヒントを出したりする。その中で、保育教諭の意見を出しすぎないように、子ども達の世界感を壊さないように注意する。 ・一人一人の子どもと十分に会話を楽しみ、成長を認め自身へつなげていこうようにする。 ・一年間の行事や遊びなど写真はったり、クラス便りで伝えたりしながら、自由に見たり話したりして、一年を振り返られる機会をもつようにする。			
家庭との連携		・保護者の生活を理解し、子育ての喜びや悩みなどに共感を示して信頼関係を築いていく。 ・保護者が安心して園に子どもを預けることができるよう連絡帳のやりとり、登園、降園での会話を大切に		・園生活での様子を保護者の方に伝えたり、お家での様子を聞きながら、保護者の思いを受けとめ、意向を大切にきみ取っていく。 ・食事、午睡、遊び、友達とのかかわりなど具体的な一人ひとりの子どもの様子を丁寧に伝え、保護者が安心して園に赴くことができるように心がける。			・行事を通して、子どもの様子を伝えたり、園生活で出来るようになったこと、お家での様子を聞きながら、ともに子どもの成長を喜びあえるようにする。 ・友達との関わりが増えていく中で、3歳児の成長の理解をしてもらいながら、保護者との思い、意向を受けとめていく。 ・お休み後の、子どもの様子を丁寧に聞きながら、日頃の家庭での子どもの姿を理解し、把握する。			・個人面談を行い、子どもの成長を振り返り、話し合い、ともに喜びあっていく。 ・自己主張や自立心が強くなる年齢であり、その反面まだ甘えたい時期でもあることを保護者とともに理解し温かく受けとめてもらうように話し合う。 ・進級への喜びを大切に温かく見守っていくよう保護者とともに共通の思いで進めていく。			